

発行所：公益社団法人 日本鉄道広告協会
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1丁目5番5号 JR恵比寿ビル10階
TEL：03-5791-1808 FAX：03-3443-1616 メールアドレス：information@jarap.jp
URL：<http://www.jarap.jp/>

巻頭レポート

公益社団法人への移行について

平成22年8月5日(木)社団法人全国鉄道広告振興協会(以下JARPという)は、新法人改革法に基き「公益社団法人日本鉄道広告協会」に移行することについて内閣総理大臣から認定書を授与された。

ここに至る経過をみると、JARPの前身である全国鉄道広告連盟(以下「鉄広連」という)は、鉄道広告の直面する諸課題に対応するには法人化が必要との理由から、国土交通大臣に申請し、平成17年11月1日、旧制度下における国土交通省最後の社団法人として許可され、鉄広連改めJARPに衣替えした。しかし、その後平成20年12月1日に公益法人改革3法が施行されたため、鉄道広告の更なる近代化、社会的ステイタスの確立、信用力の向上等の観点から新法に基く「公益社団法人」化を目指すことに意思統一を行ない、法人改革特別委をはじめ、理事会、総会等における度重なる審議を経て、平成21年9月28日、旧来の社団法人である民法特例法人から、

「公益社団法人」へ移行すべく、内閣総理大臣に申請を行なっていた。

冒頭に記したように、検討開始から約2年、正式申請から約10か月を経て、JARPは新法人法に基く公益社団法人としての認定を取得した。

改めて、会長に岩崎雄一氏、会長代行副会長に佐々木信幸氏(株)ジェイアール東日本企画代表取締役社長)が就任した。

本年6月25日に行われたJ



認定書を授与される岩崎会長

JAFRA
事務局長
前川 雅夫

JARP定期総会席上で岩崎雄一会長は「昨年から続く大変厳しい経済環境の下、広告業界も難局を乗り越えるべく様々な取組みを行なっている。公益社団法人への移行についても、業界

の今後の展開を考えると不可欠である
と考える。認定されれば公益社団法人
の趣旨に沿って活動し、信頼される
事業団体として、将来の飛躍に結びつ
きたい。」と決意を語っている。また、

年次報告書巻頭では「今回の法人改革
は、大幅な運営体制の見直しを伴うも
のだけに、申請案策定にあたっては少
なからぬエネルギーを要したが、協会
は制度が変わったとはいえ新旧いず
れも公益性をベースとしているので
事業内容が極端に変わるわけではない。
ただ、新制度では公益性について

①不特定多数の人々に対する利益の
供与、②公益事業比率が50%以上、と
いう明確な基準が示されているので、
このことを踏まえ事業運営に当る必
要がある。いうまでもなく、公益社団
法人となることによって、社会的なス
テータスや信用が高まることが期待
される」と抱負を述べている。

協会における検討プロセスとして
は、平成20年12月に施行された「公益
社団法人制度改革法案」に基づき、理
事会等で基本論議を重ねる一方、法
人改革特別委員会において、公益法人
への移行についての具体的手続きの
チェックを行い、平成21年6月の定期
総会において公益社団法人への移行
を決議した。

具体的な申請案の作成はワーキン
グチームで行い各種申請書類作成作
業等も協会内で行なった。また、JR
東日本本社派遣の塚越法務専門員に
は多大なご協力をいただいた。

申請にあたっては、旧主務官庁であ
る国土交通省との意思疎通を行なっ
た上で昨年9月28日、公益認定等委員
会(内閣府)に電子申請を行なった。

申請後は、公益認定等委員会事務局
との頻繁なやりとりがあり、特に、当
協会の公益目的事業(「鉄道広告の倫
理性、社会的妥当性及び品位の保持に
関する事業」「鉄道広告の美観風致と
の調和に関する事業」「鉄道広告にか
かわる安全の確保に関する事業」「環
境対策、社会モラル、交通マナー等の
啓蒙実践活動に関する事業」)に関す
る詳細な説明やその補足資料の提出
等を求められた。また指摘された定款
案の修正箇所については、臨時総会、
或いは定期総会においてそれぞれ対
処した。

こうした経過を経て、7月23日、公
益認定等委員会に総理大臣から申請
案が諮問され、7月29日に開催された
委員会で「認定の基準に適合」する旨
の総理大臣宛答申が決定され、これを

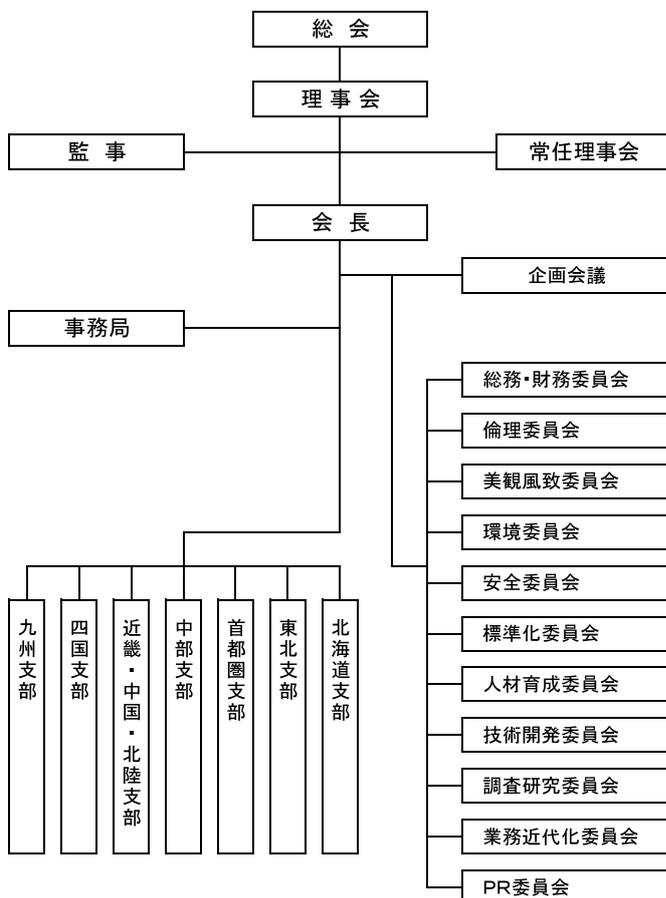
受けて、8月5日に内閣総理大臣から
当協会に対し移行認定書が交付され
た。

この後直ちに新協会の設立登記手
続きを行い8月10日に完了。この日
が、新協会の発足日となった。8月下
旬には内閣府大臣官房公益法人行政
担当室から認定の公示が行なわれる。
念のため「公益社団法人日本鉄道広
告協会」の機構は、従来通り、倫理、美

観風致、調査研究等11委員会を擁する
とともに、北海道、東北、首都圏、中部、
近畿・中国・北陸、四国、九州の7支部
を置く。事務所は東京都渋谷区、略称
はJAFRA (Japan Association for
Rail Advertising) である。

歴史的な衣替えをした協会の再ス
タートに当り、協会員全てが「新しい
皮袋に新しい酒を盛る」意気込みで、
今後の協会の発展に向け努力したい。

公益社団法人日本鉄道広告協会機構図



広場

「ホノルルマラソン」

常任理事 石塚 正孝 (ジェイアール東海エージェンシー)



昨年12月13日にホノルルマラソンを走った。タイムは5時間44分36秒だった。7年前が5時間43分50秒だったので、46秒遅れで完走できたのは我ながら予想外の健闘であった。

前回、還暦を前にして何かに挑戦してみようと考えた。まず自分の体力がどの程度残っているか知ろう。それがフルマラソンだった。元日から走り始め、5キロから10キロと少しずつ距離を伸ばしていった。20キロが走れるようになったのは5月に入ってからだった。30キロは4カ月後の9月によくやく達した。そして11月始めについて40キロ走ることが出来た。

さて、今回は8月に左足首がランニング中に痛み出した。医者に行ったら足首の筋が一部石灰化しているのが原因だという。

間違いない老化現象だ。痛みが引き、9月になり再び走り始めたところ、今度は左ひざが痛み出した。時間は容赦なく過ぎてゆく。本格的に走りこむ必要のあるこの時期にじっと我慢することはなかなか辛いものだ。それでも10月になり、そろそろという感じで20キロを2回走ることが出来た。11月中には何としても40キロまで伸ばしたいと思ひ、まず30キロに挑戦してみたが20キロを過ぎて再びひざが痛くなり無理をして30キロまで歩いたがそこまでであった。時間切れで本番を迎えることになった。

当日、膏薬を貼り不安の中を走り始めた。10キロをクリアー、痛みなし。20キロも大丈夫。コレはいけるかもと少し希望が出てきた。20キロを過ぎていわゆるランナーズハイ状態になったのか信じられないほど気持ちよく走れた。後で記録を見たら10キロと

20キロのラップタイムが1時間22分ほどであったのがそれより5分も早く走っていた。この調子では大変な記録が出ると思ひたがそうは問屋が卸さない。30キロを過ぎてスタミナが切れてしまった。

意思があっても体が動かない状態を生まれて初めて経験した。暫く歩き少し元気が出ると走る。またバテる。その繰り返しで最後のダイヤモンドヘッドの坂に差し掛かり、両腕を懸命に振り自分の足を叱咤激励し、しゃにむに走った。苦難の果ての完走であり、得がたい達成感と感動を味わった。不思議なことに足首とひざは最後まで痛くならなかった。その結果が当初の記録である。

帰りの飛行機で80歳のランナーに会った。その方は80歳〜85歳の部で優勝したという。タイムは5時間。55歳で癌になり手術してフルマラソンに挑戦したという。走ることにより癌を克服した「つわもの」である。

今年の元日にいつもの練習コースである川の土手を走っていたら、さわやかに走るあのおじいさんとばったり。このおじいさんに大なる刺激を受け、私の人生の地平がさらに広がった思いである。還暦の限界などとは言っていられない。今度は十分に練習しさわやかにゴールのテープを切りたいと思っている。目標は5時間30分を切ることである。今のところトレーニングは順調である。

次回は理事 高橋利治氏の予定です、お楽しみに。

平成22年度定期総会を開催

6月25日(水) ホテルメトロポリタン(池袋)で多数の会員が出席して開催した。

第1号議案・第2号議案

懇親会は国土交通省堀家久靖様をはじめ、各界からの来賓を交え約200名が出席した。

6月25日(水)15時30分、ホテルメトロポリタン(池袋)において、平成22年

度定期総会を開会し、平成21年度事業報告及び決算、平成22年度事業計画及

び予算案、任期満了に伴う協会役員の変更案などを審議した。

平成21年度事業報告(案)及び、平成21年度決算(案)は、挙手による採決の

岩崎会長挨拶(要旨)

本日は大変お忙しいところ定期総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

今回は今日ご審議いただいたものが、これからの協会の前途の枠組みを決めるという大変重要な総会です。

昨年度からの大変厳しい市場環境が今年度に持ち越されるであろうという判断から、皆様の意見も伺い、協会会費の20%軽減、それにあわせて協会経費の削減、或いは繰り延べなどの予算縮小の措置を講じ、何とか皆様方のご協力により協会としてまずまずの活動が継続できていることを感謝しております。

景気の方は持ち直しの気配は見受けられるものの、世界金融の運命共同体化現象とでもいうのでしょうか、ギ

リシア、アイスランドといった遠方の国家が財政破綻をすると全世界に直ちに影響を及ぼすといったことが次から次へと起こり、その都度持ち直し気味の景気が腰折れするといった具合に、なかなか先が見通せないというのが率直なところでは。

この難局を乗り切りたい、ということとで施策を講じた訳ですから、それに従って皆さんがこの1年に取り組みたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

まず報告しておかねばならないことは、懸案の法人改革のことです。昨年9月末に公益社団法人の認定申請をして以来9か月になります。経過はどうなっているのかと疑問をお持ちの方もいらっしゃると思いますので、その点についてご説明をいたします。

現在、認定申請から9か月と申しましたが、これは決して短いとは言

ませんが他と比べて長い期間というわけでもありません、平均的な期間と考えればいいと思います。これまで様々な問題が提起され、折衝してまいりましたが、現在ただ1つ残った課題は、昨年の定期総会の時に定款改正を行い、全国規模で展開している会員社の支社等に議決権を与えることとした件についてです。現実問題として支部単位でみて会員扱いするということが協会活動の実情に合っているということで、「承認団体」として議決権を持っていたいただいております。しかしながら、このことについて認定等委員会から、総会における議決権は、会員1名につき1個とすると明記されているので、そのことと矛盾するのではないかとご指摘を受けました。会員の議決権というの大きな会社であろうと小さな会社であろうと1つは1つということとです。検討の結果、承認団体の件は取り下げることになりました。

そういうことで、昨年の定期総会で定款に追加した承認団体の件については、本日の定期総会で、削除するという改正をお諮りいたします。今の支店等の運営の実態を見ますと独立採算制、或いは独立的経営で行われているのが現実の姿でありますし、地域にしてみれば今までの会員が会員でなくなるということは、地域の活動に支障をきたすところがあるかもしれないと。何か定款の枠内で実態に則した良い方法がないか検討したいと思っておりますが、この件何卒ご了承をいただきたいと思っております。

本日の総会で修正議決をいただき、議事録を改革委員会に提出しますと、最後の障害が取り除かれると思っております。

本日は色々なことを審議していただきますのでよろしくお願いいたします。



総会で挨拶する岩崎会長

結果、委任状によるものを含め、定款第41条に基づく2/3以上の賛成により議決された。

第3号議案

1. 基本方向

平成22年度事業計画(案)について
景気は一進一退ながら、やや持ち直しの動きをみせてはいるが、現在依然としてデフレ下にあることに変わりはなく、とくに広告業界は深刻な売上げ不振に陥っている。

この状況にかんがみ当協会としては22年度の会費について2割の減額を行なう緊急措置を講じることとし

た。この結果生ずる協会会費収入の減少については諸経費の縮減や一部事業計画の見直し、繰り延べなどにより対処し、年度の収支バランスについては堅持することとしている。

しかしながら22年度の協会運営がかなりタイトとなることは避けられずこの点について会員各位のご理解ご協力をお願いしたい。

第2としては、22年度初には申請中の当協会の公益社団法人について何らかの結論が出ると思われるが、幸いにして申請通り認定されれば、設立登記後、公益社団法人として新定款に基づき事業運営を行うことになる。その方向性、内容については既に以下の22年度事業計画案におおむね織り込んでいる。新法人になったといっても、



監査報告をする矢田監事

元々が旧法の公益法人であったために事業計画事態がそれ程大幅に変わるわけではない。ただ、重要なことは、公益とは「不特定多数の人々にプラスをもたらすこと」であることを銘記し事業計画の実現に努めることである。

第3として22年度は間違いなくデジタルサイネージが鉄道広告の主流として本格的な普及の段階に入ることである。そのことを踏まえ種々の課題、例えば、ネットワーク化、美観風致との協調、価格設定、媒体サイズ、アカウンタビリティ(とくに視認率)、鉄道交通量の把握等についての標準化を図ることが将来のために喫緊のことと思われる。

既に紙ポスターと媒体枠を基本とした現行体制は大きく変化しつつある。個々ばらばらな普及により将来に禍根を残すことのないよう今から先見性をもってこのことに取組むことが必要である。

2. 各委員会の主な活動目標

総務財務委員会

●公益社団法人化に伴なう協会運営

のあり方についての指針の策定

●公益法人会計基準の導入

●支部活動活性化支援

●年次報告書の作成

●新規会員の入会促進(公益社団法人化を機に募集キャンペーンを展開)

●他広告団体との交流

総務・財務委員長

間宮 泰三

活動目標は前年度を踏襲したのもになると思います。公益法人関係の会計基準の導入、支部活動の支援のほか、財務関係については会費を20%減免いたしましたことから、予算が縮小しましたが、中身を充実させるよう支援活動をさせていただきます。21年度の年次報告書もそれに伴い厚みが薄くなりましたが、稲川編集責任者を始め、編集の皆様の努力と、事務局のご協力により中身の濃いものが出来上がったことをご報告いたします。ご意見がございましたら、お寄せ下さい。新規会員の入会意欲ですが、昨年に比べ10社減ということになっておりますので、公益法人化を機に会員入会を促進してまいりたいと思います。ま

た、他広告団体関係との交流を深めてまいりたいと思います。

倫理委員会

- 倫理綱領、掲出基準に基づく広告審査実態の継続的把握
- 鉄道広告倫理綱領及び掲出基準の適用に関する教育研修の実施
- マナーキャンペーン実施の検討
- 広告倫理に関する事例研究及びそれに基づく審査の標準化
- 日本広告審査機構、日本雑誌協会等との意見交換

倫理委員長

清水 英明

マナーキャンペーンの具体的な内容につきましては、報告事項のところでご説明させていただきます。このことについて鉄道会社様をはじめ、ご協力をいただきました皆さまに改めて御礼申し上げます。

美観風致委員会

- 環境委員会と共同による第4回地球温暖化防止キャンペーンの実施

● 美観対策事例の収集と紹介

● 美観事例集の刊行

● 美観風致に関する教育研修・訓練の実施

美観風致委員長

滝 久雄

今年度も課題を5つ掲げております。今年で4回目を迎えます地球温暖化防止キャンペーンについては、スタートの段階では、日本を代表するアーティストの皆さんに協力をお願いすること自体、やや躊躇を感じたのですが、今日では、全国に作品が貼られることによる反響の大きさや先生方は驚かれています。そのようなことで、4名の先生方も力を入れて、自分のファン、生徒、新しく生れるであろうファンを意識して意欲的に制作に取り組んでいただいております。その他例年行っております事業を引き続き実行したいと思っております。

安全委員会

- 「事例で学ぶ安全作業」の作成
- 「絵で見る安全作業マニュアル」(改訂版)の発行

● 作業手順マニュアル及びチェック集の素案作成

● 安全管理体制に関する調査研究の推進

● 安全作業に関する教育研修の実施

安全委員長

稲垣 義孝

安全委員会はここに5項目掲げておりますが、「事例で学ぶ安全作業」の作成について昨年来よりワーキンググループを進めておりまして、原稿もほぼ精査された段階になっておりますので、準備が整い次第発行して皆様方のお手元にお届けしたいと考えております。

「絵で見る安全作業マニュアル」につきましては、初版が発行されてからかなり時間が経っているので改訂版を発行します。人材育成委員会の実務者研修で1コマいただいておりますので、その教科書として先ほどの冊子と併せて使用いたします。

今までの活動の中で、作業マニュアル、安全管理規則、事故事例集など、今後は危険予知活動を含めた作業手順に関わるモデルの構築をし

ていきたいと思っております。

環境委員会

- COP等にもみる世界の動き、日本の置かれている立場(CO₂ガスを2020年に1990年対比25%削減)・我が国環境対策の現状把握
- 環境研修講座の開設
- 環境対策事例の研究
- CO₂削減対策への具体的取組みについての検討(目標管理)
- 第4回地球温暖化防止ポスターキャンペーンの実施

環境委員長

稲垣 義孝

昨年12月に各社にアンケート調査をしまして、JARAPNEWSでも報告させていただきましたが、ISO14000を取っている会員社もあれば、そういったことにはまだ手をつけていないといった会員もあり、そのため対策の進め方が難しい訳ですが、共通の要望事項として、現状の把握とか、基礎的な環境研修講座の実施とありましたので、それを踏まえCO₂削減対策への具体的取



熱心に耳を傾ける会員の皆さま

組みの第一歩として何ができるのか
ということに早急に結論を出し実行
したいと思っております。

標準化委員会

●2010年度版「全国鉄道広告料金表」の協会ホームページへの収録、公開

●各標準化プロジェクトの推進

- ①モニター制度：掲出確認方法に関する情報収集と改善策の検討
- ②データ収集：調査研究委員会と共同によるJARAPシステムの検討、鉄道駅の出入口別乗降人員等の把握
- ③共通約款問題：事故・災害時における広告の取扱い等について具体例を収集し、引き続き検討

●携帯マナーに関する表記の標準化の検討

●デジタルサイネージ化に関する各種標準化の検討

標準化委員長
中山 久義

2010年度版「全国鉄道広告料金表」は各エリアの皆さまにご協力をいただきありがとうございます。費用の関係上、今年度は協会ホームページに収録しております。これも会員の皆さまの協力を以てもう少し使いやすいものにできないか検討しているところです。以下、議案書のとおりでございます。

人材育成委員会

●「交通広告ビジネス概論(改訂版)」の発行

●鉄道広告実務者研修の実施

●セミナー、シンポジウムの実施

人材育成委員長
牛込 昭洋

「交通広告ビジネス概論」ですが、昨年度は予算の関係がありました。今年度は改訂版を発行する予定です。中身といたしましては、標準化委員会で出ましたようなデジタルサイネージにポイントを置いていこうかなと思っております。鉄道広告実務者研修につきましても、比較的年次の浅い人を対象に支部毎に実施する予定です。セミナー、シンポジウムにつきましても、各支部総会に併せて実施し、一般の来聴者も受け入れたいと考えております。実施に当たりましては、各委員会の方にも講師をお願いすることになりますのでよろしくお願いいたします。

技術開発委員会

●デジタルサイネージに関する情報の共有化と具体的導入の促進

●鉄道広告のアカウントビリティ(性別・年齢別の認知率など)に向けた技術開発の促進

●その他鉄道広告に応用可能な先端技術情報の収集と共有化

技術開発委員長
佐伯 圭介(代理 河田 健治)

デジタルサイネージに関する情報の共有化と具体的導入の促進、鉄道広告のアカウントビリティ(性別・年齢別の認知率など)に向けた技術開発の促進、その他鉄道広告に応用可能な先端技術情報の収集と共有化をメインに推進していくこととしていきます。

調査研究委員会

●効率的なメディアプランニングに関する研究の促進

●e-販促データシステムを含めたインフラとしてのJARAPシステムの検討(広告料金、利用者数、輸送人

員等のマーケティングデータ提供)

● 鉄道利用者の鉄道広告に対する意識調査の実施

● クライアントの鉄道広告に対する意向調査の実施

● 媒体活用事例の調査と紹介

● マーケティング講座の開設

調査研究委員長

栗原 圭一

6つ項目がありますが、効率的なメディアプランニングに関する研究の促進とe販促データシステムを含めたインフラとしてのJARR APシステムの構築については、かなりお金のかかる項目なので、これからのように進めていくどうかと検討しているところですが、まだ具体的結論には至っておりません。他鉄道利用者の鉄道広告に対する意識調査の実施、クライアントの鉄道広告に対する意向調査の実施、媒体活用事例の調査と紹介とマーケティング講座の開設については従来どおり活動を進めていきたいと思っております。

業務近代化委員会

● 業務近代化に関する会員社へのアンケート(首都圏支部)結果の分析と活用方法の検討

● 優先的な業務近代化の課題提言

● デジタルサイネージ導入による近代化目標の検討

業務近代化委員長

堀 宏明 (代理 河田 健治)

業務近代化に関する会員社へのアンケート(首都圏支部)結果の分析と活用方法の検討、優先的な業務近代化の課題提言、デジタルサイネージ導入による近代化目標の検討を進めていきたいと考えております。

PR委員会

● 「JARR AP NEWS」の自前編集と隔月発行化

● ホームページの充実

① 公益社団法人化を念頭においたホームページデザイン改修の検討

② 「地球温暖化防止キャンペーン」等に合わせた専用ページの開設

● 公益社団法人化後の協会PR

PR委員長

石塚 正孝

予算の縮小に伴い「JARR AP NEWS」の自前編集と隔月発行化となっております。その分、会員のニーズに合わせた情報提供を積極的に行ないたいと思います。ホームページも充実させ、今年度は公益社団法人化が実施される予定ですので、それに併せて協会のPRも行なっていきたいと思っております。

法人改革特別委員会

● 公益社団法人認定取得に伴う業務運営のあり方についての検討

3. 各支部の主な活動目標

北海道支部

● 支部幹事会の開催(4月)

● 支部総会の開催(4月)

● 媒体会議の開催(年4回)

● 研修会の開催(23年1月)

● 新規会員の入会懇瀧

● 地球温暖化防止キャンペーンの実施

北海道支部長

山口 力

例年通り定例の会議を続けていきます。特に北海道では10月に旭川の新しい駅ができますし、来年の春には白石駅ができますので、媒体の開発とともに、全般的にはデジタルサイネージの導入を検討していきたいと思っております。また、北海道支部には会員が19社ありましたが、年頭に1社撤退しましたので新しい会員を獲得したいと思っております。

東北支部

● 支部総会の開催

● 支部セミナーの開催

● 関東・関西地区媒体開発事例の東北支部への導入の検討

● 新規会員の入会懇瀧

● 地球温暖化防止キャンペーンの実施

東北支部長

佐藤 俊一郎

5つ項目がありますが、定番メニューは別にいたしまして、媒体の新しい素材はもう既に実証実験の

段階からかなり実務に走り始めておりますが、素材そのものは皆さん共通認識をお持ちいただけるところになっておりますので、今後地方でのビジネスモデルとしての展開の勉強にしばって他地区、特に先進事例の多い関東、関西での情報収集、視察などを行ないたいと考えております。

首都圏支部

- 支部幹事会の開催(7月)
- 支部セミナーの開催(10月、12月、23年2月の3回を予定)
- 鉄道広告実務研修の開催(9月)
- 支部総会の開催(23年2月)
- 関東交通広告協議会(11社会)との連携強化
- 地域間交流の促進
- 新規会員の入会懇話
- 地球温暖化防止キャンペーンの実施

首都圏支部長
佐々木 信幸

昨年と同様の活動ですが、7月7日に支部の幹事会を開きまして詳細を決定したいと思っております。セミナー

ナーにつきましては昨年と同様3回計画しております。鉄道広告研修ですが、昨年度は90名各社より参加いただきました。鉄道広告の実務経験が浅い方の研修を行いました。これも9月に予定しております。支部総会の開催も従来どおりです。特に地域間交流の促進という項目ですが、首都圏支部の地方エリアから広告実務者研修を開催して欲しいという要望があり開催いたしました。昨年、長野・新潟地区25名の参加をいただき実施しておりますが、今年も同程度の規模で開催したいと考えております。その他の取組につきましても同様でございます。

中部支部

- 支部総会の開催(6月予定)
- 支部セミナーの開催(6月予定)
- 他地区の媒体視察・情報交換会の実施(秋頃予定)
- 新規会員の入会懇話
- 地球温暖化防止キャンペーンの実施

中部支部長
石塚 正孝

基本的には、昨年度と同様ですが、今年は支部セミナーを貨物駅がありました笹島の跡地の開発に関する勉強をしようと思っております。地球温暖化防止キャンペーンですが、名古屋でCOP10が10月に開催されますので、それに合わせて同様のキャンペーンを展開したいと考えております。

近畿・中国・北陸支部

- 支部総会・懇親会の開催(7月5日)
- 支部幹事会の開催(6月、10月、22年2月)
- 支部セミナーの開催(7月5日)
- 鉄道広告実務研修の実施(9月)
- デジタルサイネージ化に伴う視察及び情報の共有化
- 大型プロジェクト(鉄道・流通)の情報収集
- 関西交通広告協議会との連携
- 「JARAP NEWS」を通じての情報提供の充実
- 新規会員の入会懇話
- 地球温暖化防止キャンペーンの実施

近畿・中国・北陸支部長
浅沼 唯明

定例的なものは、省略いたします。デジタルサイネージ化と書いてありますが、これは大きなうねりを支部としてもしっかりと捉えていきたいと思っておりますので、視察或いは情報共有を進めてまいりたいと思っております。昨年は上海へ一部の人が参りまして、大変参考になったと思います。大型プロジェクトのことですが、これはJRの関係になりますが、大阪駅が来年春季2000億円以上の投資をして完成が近づいております。かなりの空間ができてきますので、交通広告にとりましても大きなエポックメイキングとなります。またその空間にショッピングセンターなどの流通関係ができますので、情報収集をして実態を報告できるようにしていきたいと思っております。それから関西交通広告協議会との連携ということで、メンバーは支部と重複しておりますので、今年も期待しております。

四国支部

- 支部総会の開催(6月)
- 支部会員交流会の開催(12月)
- 研修会の開催(23年2月)

- 企画・提案のできる人材の育成
- 新規会員の入会促進
- 地球温暖化防止キャンペーンの実施

四国支部長

高橋 利治

研修会の開催とありますが、デジタルサイネージを中心としました新規媒体の事例研究ということで、来年九州新幹線が全通しますのでその時大阪駅、博多駅がかなり大規模な媒体も出るようですので、両駅またはどちらかへ視察に参りたいと思います。会員のレベルアップは、12社と小さい支部ですので自前でセミナーを開催できませんので、他機関の開催するセミナーなどに積極的に出席できるようにしたいと思います。

九州支部

- 支部総会の開催(12月)
- 支部セミナーの開催(12月)
- 支部運営会議の開催(4月、11月、23年3月)
- 支部運営小会議の開催(4月、10月、23年2月)
- 西鉄広告会、福岡市営地下鉄交通広

- 告会、九州鉄道広告会との連携強化
- 新規会員の入会促進
- 地球温暖化防止キャンペーンの実施

九州支部長

佐伯 圭介 (代理 河田 健治)

昨年とほぼ同様ですが、特に新規会員の入会促進とありますが、西鉄広告会、市営交通広告会と連携強化し、5社ほど入会をいただけるよう考えております。

以上の説明の後、挙手により採決の結果、定款第39条に基づく委任状189名を含め2/3以上の賛成により、本議案は議決された。

4. 今後の協会行事計画

- 定期総会 6月25日(金)
於ホテルメトロポリタン(池袋)
- 理事会

- 第1回 6月25日(金)
於ホテルメトロポリタン(池袋)
- 第2回 9月 未定
- 第3回 12月 未定
- 第4回 23年3月 未定

第4号議案

平成22年度予算(案)は、挙手により採決の結果、定款第39条に基づく委任状によるものを含め2/3以上の賛成により議決された。

第5号議案

理事及び監事の任期満了に伴う役員選任(案)について

平成22年度定期総会終結時に任期満了となる理事及び監事は、本総会の前に行われた理事会において総会での承認を前提に取りまとめられた選任案を示し、挙手による採決を求めた結果、満場一致で議決された。

また、副会長、専務理事及び常任理事の役職については定款第13条2項に基づき総会終了後の理事会で選出された。なお、会長については、昨年6月10日の定期総会における定款改正より「本会の移行の登記後の最初の会長は岩崎雄一とする。」ことが、定款附則に定めており、会長は既に再任されている。

新たに選任された理事、監事は次の通り。
(平成22年6月25日 敬称略)

新役員名簿

会長(1名)

岩崎 雄一 (社)全国鉄道広告振興協会

会長代行副会長(1名)

佐々木信幸 (株)ジェイアール東日本企画

副会長(4名)

滝 久雄 (株)NKB

浅沼 唯明 (株)ジェイアール西日本

牛込 昭洋 (株)メトロアドエージェンシー

間宮 泰三 協立広告(株)



来賓挨拶をする国交省 鉄道局鉄道業務政策課長 堀家久靖さま

常任理事(10名)

石塚 正孝 (株)ジェイアール東海エー

ジェンシー

小野寺忠之 (株)春光社

川端 友泰 (株)東急エージェンシー

神田橋 治 (株)TOMOE

栗原 圭一 (株)ムサシノ広告社

清水 英明 (株)近宣

富田 栄次 (株)大阪オリコミ

長渡 泰三 (株)日交

正盛 和彦 (株)オリコム

柳館 毅 (株)電通

理事

井上 和久 北海道旅客鉄道(株)

大津 英敏 多摩美術大学

勝見 亮助 (社)日本雑誌協会

加藤 正人 名古屋鉄道(株)

金田 収 (株)小田急エージェン

シー

河内 綱司 東京急行電鉄(株)

塩田 正 京阪電気鉄道(株)

白水 清隆 西日本鉄道(株)

鈴木 幹雄 東日本旅客鉄道(株)

高橋 利治 (株)ジェイアール四国企画

田中 里沙 (株)宣伝会議

田中 龍治 九州旅客鉄道(株)

藤内 哲夫 (株)ジェイアール九州エ

佃 吉朗 南海電気鉄道(株)

西崎 一 近畿日本鉄道(株)

林 香弘 西武鉄道(株)

肥後 謙一 東京地下鉄(株)

松尾 茂之 (株)京急アドエンタープ

ライズ

宮田 亮平 東京藝術大学

茂木 正大 小田急電鉄(株)

山口 正人 西日本旅客鉄道(株)

米田 龍司 (株)日本宣交社

渡辺 文雄 (株)日交西部本社

専務理事(1名)

河田 健治 (社)全国鉄道広告振興

協会

監事(4名)

宍戸 旦 (社)日本広告審査機構

稲川 一 (株)文宣

矢田 武男 (株)中央廣告

稲垣 義孝 (株)東京メディア・サー

ビス

(氏名五十音順)

第6号議案

公益社団法人化のための定款一部改
正案及び会費規則一部改正案について

挙手による採決の結果、定款第39条
に基づく委任状189名を含め3/
4以上の賛成により、本議案は説明通
り議決された。

報告事項

①第4回地球温暖化防止キャン
ペーン展開計画について

②第1回全国鉄道広告マナーキャ
ンペーンについて

以上をもって17時10分総会は滞り
なく終了した。

同日、総会終了後の懇親会にお越し
いただいた多くの来賓を代表して、堀
家久靖鉄道局業務政策課長並びに、媒
体社を代表して清野智東日本旅客鉄
道株式会社代表取締役社長よりご挨拶
をいただきました。

皆さまにはお忙しい中ご出席いた
だき、ありがとうございました。

以上



乾杯の発声をする東日本旅客鉄道
副社長 新井良亮さま



来賓挨拶をする東日本旅客鉄道社長
清野智さま

平成22年度予算
収支予算書総括表

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位：円)

科 目	一般会計	特別会計	合 計
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①入会金収入	60,000	0	60,000
②会費収入	51,342,000	0	51,342,000
③補助金等収入	11,500,000	0	11,500,000
④負担金収入	1,500,000	6,095,000	7,595,000
⑤寄付金収入	0	0	0
⑥雑収入	50,000	0	50,000
事業活動収入計	64,452,000	6,095,000	70,547,000
2. 事業活動支出			
①事業費支出	48,033,000	5,250,000	53,283,000
②管理費支出	23,231,000	0	23,231,000
事業活動支出計	71,264,000	5,250,000	76,514,000
事業活動収支差額	-6,812,000	845,000	-5,967,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
特定資産取得支出	1,050,000	0	1,050,000
投資活動支出計	1,050,000	0	1,050,000
投資活動収支差額	-1,050,000	0	-1,050,000
III 予備費支出	500,000	0	500,000
当期収支差額	-8,362,000	845,000	-7,517,000
前期繰越収支差額	13,701,772	1,837,466	15,539,238
次期繰越収支差額	5,339,772	2,682,466	8,022,238



一般会計収支予算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①入会金収入				
入会金収入	60,000	90,000	-30,000	
②会費収入				
正会員会費収入	47,692,000	62,005,000	-14,313,000	
特別会員会費収入	2,100,000	2,100,000	0	
賛助会員会費収入	1,550,000	1,500,000	50,000	
③補助金等収入				
民間補助金収入	11,500,000	11,500,000	0	
④負担金収入				
負担金収入	1,500,000	2,700,000	-1,200,000	
⑤雑収入				
雑収入	50,000	100,000	-50,000	
事業活動収入合計	64,452,000	79,995,000	-15,543,000	
2. 事業活動支出				
①事業費支出				
給料手当支出	8,400,000	13,200,000	-4,800,000	
通勤費支出	250,000	459,000	-209,000	
福利厚生費支出	1,210,000	1,840,000	-630,000	
会議費支出	7,273,000	8,550,000	-1,277,000	
旅費交通費支出	480,000	1,420,000	-940,000	
通信運搬費支出	2,930,000	4,620,000	-1,690,000	
消耗品費支出	810,000	1,286,000	-476,000	
修繕費支出	7,250,000	2,350,000	4,900,000	
印刷製本費支出	16,010,000	16,165,000	-155,000	
諸謝金支出	90,000	100,000	-10,000	
委託費支出	1,930,000	3,080,000	-1,150,000	
雑支出	1,400,000	1,500,000	-100,000	
②管理費支出				
給料手当支出	10,200,000	12,000,000	-1,800,000	
通勤費支出	245,000	245,000	0	
福利厚生費支出	876,000	876,000	0	
会議費支出	3,100,000	4,400,000	-1,300,000	
旅費交通費支出	180,000	200,000	-20,000	
通信運搬費支出	790,000	740,000	50,000	
消耗什器備品費支出	50,000	50,000	0	
消耗品費支出	170,000	210,000	-40,000	
新聞図書費支出	390,000	420,000	-30,000	
印刷製本費支出	20,000	60,000	-40,000	
光熱水料費支出	460,000	460,000	0	
賃借料支出	5,330,000	8,295,000	-2,965,000	
諸謝金支出	388,000	504,000	-116,000	
租税公課支出	72,000	72,000	0	
会費支出	300,000	300,000	0	
雑支出	660,000	660,000	0	
事業活動支出合計	71,264,000	84,062,000	-12,798,000	
事業活動収支差額	-6,812,000	-4,067,000	-2,745,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入合計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	1,050,000	1,400,000	-350,000	
投資活動支出合計	1,050,000	1,400,000	-350,000	
投資活動収支差額	-1,050,000	-1,400,000	350,000	
III 予備費支出				
予備費支出	500,000	500,000	0	
当期収支差額	-8,362,000	-5,967,000	-2,395,000	
前期繰越収支差額	13,701,772	6,081,831	7,619,941	
次期繰越収支差額	5,339,772	114,831	5,224,941	

特別会計収支予算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	前年度予算	増減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①負担金収入			
負担金収入	6,095,000	6,270,000	-175,000
事業活動収入合計	6,095,000	6,270,000	-175,000
2. 事業活動支出			
①事業費支出			
会議費支出	500,000	310,000	190,000
修繕費支出	0	0	0
委託費支出	4,700,000	5,050,000	-350,000
雑支出	50,000	50,000	0
事業活動支出合計	5,250,000	5,410,000	-160,000
事業活動収支差額	845,000	860,000	-15,000
当期収支差額	845,000	860,000	-15,000
前期繰越収支差額	1,837,466	866,546	970,920
次期繰越収支差額	2,682,466	1,726,546	955,920



歓談する会員のみなさま



中締めをする NKB 滝社長

近畿・中国・北陸支部

支部総会・懇親会を
開催しました

7月5日(月)、ホテルグランヴィア大阪「鶴寿の間」に於いて、近畿・中国・北陸支部「第4回支部総会」を



開催した。平成21年度事業報告、平成22年度事業計画及び予算案が承認された。

また、主な報告事項として幹事委嘱変更、支部事務局担当者の変更と、「第4回 地球温暖化キャンペーン」の概要報告などが行われた。

セミナーの開催

支部総会に引き続き、同ホテル「名庭Aの間」に於いて、(株)ライバルメディアハウス代表取締役社長 池田紀行氏を講師としてお招きし、「コミュニケーションデザインとOCH」というテーマで約1時間30分の講演会を開催した。

今回の内容は、個人が受け取る情報が増え広告が効きづらくなってきた背景、ソーシャルメディアの台頭、コミュニケーションデザインを

考える上での重要なポイント、海外のOCHケーススタディなど多岐に渡る内容について分かり易く説明をしていただいた。



●社員の代表者が変更になった場合など、変更届はホームページ (<http://www.jarap.jp>) の「各種届出書類」に用意してございますので、ご記入の上、事務局宛にお送り下さい。ご協力お願いします。

編集後記

JARAP NEWS改めJAFRA NEWSになりました。個人的に、業務は以前と変わっていませんのであまり実感がありませんが、ご協力いただきましたみなさまには心からお礼を申し上げます。今年の夏は、本当に暑かったのですが、その時期に地球温暖化防止キャンペーンのポスターを掲載いたしました。そのポスターの写真を携帯で撮っている学生さんたちに遭遇しました。嬉しかったのですが、その光景を写真に撮るのは盗撮になる…ような感じがしましたので、あきらめました。また来年もよろしくお願いします。

●メールと写真、ご意見、ご感想はこちらへどうぞ。 information@jarap.jp



写真を撮るのは難しいですね。

●次号 Vol.2 は 10月1日発行予定です。お楽しみに。

第4回地球温暖化防止全国鉄道広告キャンペーンを開催!

エキからエコ。―地球温暖化を、一枚の環境アートから考えるプロジェクト躍動。

当協会では2010年8月6日(金)～8月31日(火)の期間、全国のJR、私鉄、地下鉄38社の協力を

得て、各鉄道の駅及び車両内のポスター枠を使った今回で4回目になる地球温暖化防止キャンペーンを実施いたしました。

今年も全国の拠点エリアで延べ枚数約35万枚のポスターを掲出し、J

ARAPホームページ内にも、地球温暖化防止キャンペーン特設サイトを立上げ、キャンペーンの概要、各アーティストの紹介、協力鉄道会社の環境活動サイトへのリンクをいたしました。また昨年に引き続き、今回もキャンペーン期間が、学校の夏休みにあたるため、親子で鉄道やエコに興味を持っていただけるよう、「夏休みの自由研究」のページを開設し、鉄道各社が具体的にどのような環境活動に取り組んでいるのかを紹介したり、全国各地にある鉄道博物館などを紹介するページも設けました。

また、前回同様、現代を代表する著名アーティスト及びクリエイターがキャンペーン趣旨に賛同し、ボラ

ンティアで制作に参加していることも大きな特徴のひとつです。

全体を統一するコピーは「エキからエコ。地球温暖化を、一枚の環境アートから考えるプロジェクト躍進。」とし、4人の著名アーティストによる「美しい環境と野生生物」をポスターテーマにした内容となっています。

1. 実施期間

平成22年8月6日(金)～8月31日(火)

2. ビークル

- 車内ポスター
- B3ポスター×4種類
- 駅ポスター
- B1ポスター×5種類
- B0ポスター×4種類

3. 制作協力

- ビジュアル提供…
- 宮田亮平氏
 - 東京藝術大学学長
 - 「シュプリングン」(新作)
 - 大津英敏氏
 - 多摩美術大学造形表現学部長
 - 「平成の虎」(新作)
 - 手塚雄二氏
 - 東京藝術大学教授
 - 「きらめきの森」(部分)2005年

日比野克彦氏

東京藝術大学教授

「Dis cover」(新作)

コピーライター…マキプロ

アートディレクター…蝦名龍郎氏

4. 協賛

財団法人日本宝くじ協会

5. 後援

環境省 国土交通省

6. 協力

- 小田急電鉄(株)、九州旅客鉄道(株)、京都市交通局、近畿日本鉄道(株)、京王電鉄(株)、京成電鉄(株)、京阪電気鉄道(株)、京浜急行電鉄(株)、神戸市交通局、埼玉高速鉄道(株)、相模鉄道(株)、札幌市交通局、山陽電気鉄道(株)、四国旅客鉄道(株)、首都圏新都市鉄道(株)、西武鉄道(株)、東海旅客鉄道(株)、東京急行電鉄(株)、東京地下鉄(株)、東京都交通局、東京モノレール(株)、東京臨海高速鉄道(株)、東武鉄道(株)、東葉高速鉄道(株)、名古屋市交通局、名古屋鉄道(株)、名古屋臨海高速鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、阪急電鉄(株)、阪神電気鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)、福岡市営地下鉄、北海道旅客鉄道(株)、横浜高速鉄道(株)、横浜市交通局、横浜新都市交通(株)

(38社、五十音順)



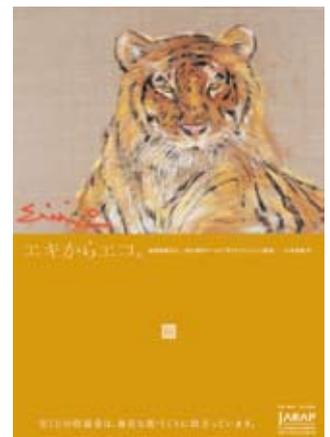
宮田亮平 作 シュプリングン



手塚雄二 作 きらめきの森(部分)



日比野克彦 作 Dis cover



大津英敏 作 平成の虎